



しろうさぎ

S H I R O U S A G I



特集 Special issue

『脳卒中について』

インタビュー

- 高度脳卒中センター センター長…………… 林 健太郎 教授
- 脳神経内科 診療科長…………… 長井 篤 教授
- 脳神経外科 診療科長…………… 秋山 恭彦 教授

Contents

- * Professor ～どんな先生?～
- * まるわかり看護部
- * 私のここだけの話
- * 病院紹介
- * ニュース&トピックス
- * イベントなどのお知らせ
- * しまだい病院のキラ☆めき!

島根大学病院では、高度脳卒中センターの稼働により脳卒中医療に関わる診療科・部局の一層の連携を図り、高度脳卒中センターを核として、脳神経内科と脳神経外科が同時に診察を行い、最良の治療を行うことができるよう診療体制を強化しています。

高度脳卒中センターが 開設して1年が経過しました

高度脳卒中センター

センター長 はやし 林 けん た ろう 健太郎 教授



——脳卒中とは？

脳の血管が詰まって脳の一部が傷んでしまう脳梗塞と、脳の血管が切れて脳に出血をきたす脳出血があります。脳出血は脳の表面の血管の一部が風船のようにふくらんで破裂することによるくも膜下出血と脳に入り込んだ細い血管が切れて脳の中に出血する脳内出血があげられます。傷んだ脳の部位によって手足が動けなくなったり、言葉が話せなくなったりします。いずれも突然に発症することが特徴で、早く対処することにより、回復することもあるため、急いで病院を受診していただくことが大切です。近年、高齢化や生活習慣病の増加に伴って、脳卒中は増加しており、高い死亡率や後遺症が残ることが多いため、その対策として高度脳卒中センターが開設されました。

——センターの特徴・役割とは？

高度脳卒中センターでは受診後に速やかに救急診療を進めます。看護師、脳神経内科医、脳神経外科医、救急医が一緒になって初期治療にあたります。CTやMRIといった画像診断も向上してきており、放射線技師も協力して、24時間いつでも速やかに脳卒中の診断が可能です。そして、必要に応じてtPA静脈注射治療や脳血管内治療、脳神経外科手術を行います。治療後の病棟での専門看護やリハビリテーション、学生や研修医教育など総合的に脳卒中診療に取り組むことがセンターの特徴で、地域医療と人材育成が重要な役割です。

——今後の展望

高度脳卒中センターが開設して、1年が経過しました。脳卒中の患者さんの搬送も増え、救急治療は充実しています。後遺症に対する看護やリハビリテーションなど病棟での回復にも力を入れ、回復期リハビリテーションや自宅療養においても地域の先生方と連携して、地域ぐるみの脳卒中診療を目指して行きたいと思っています。



脳梗塞から緊急に回収された血栓

1秒でも早く脳卒中に気づき、治療を開始するために 『FAST』で 脳卒中のサインを見逃さない！

手足の運動麻痺、顔の麻痺（ゆがみ）、ことばの障害が急にあらわれたら脳卒中の可能性が高いといわれています。重症の脳卒中では突然、意識がなくなることがあります。糖尿病や高血圧などの持病があれば、かかりつけ医で治療することが脳卒中の予防となります。ただし、脳卒中の症状がみられたら、かかりつけ医を受診していると治療が遅れるため、直接、島根大学病院などの脳卒中の治療ができる病院を受診されることや救急車を呼ばれることをお勧めします。



Face（顔の麻痺）、**A**rm（腕の麻痺）、**S**peech（ことばの障害）

このような症状があらわれたら、**T**ime（発症時刻）を確認しすぐに病院へ。

早期治療のための連携

島根大学病院では4月から脳卒中当直体制を敷き、24時間体制で脳卒中の急患に対応しています。脳卒中ホットラインを開設し、救急隊や医療機関から直接連絡をいただき、初動時間の短縮に努めています。また、院内ではスマートフォンアプリを用いてスタッフに通知し、画像診断を含めて情報共有しています（図）。



脳卒中ケアユニット(SCU)がスタートしました！

島根大学病院では山陰初の脳卒中ケアユニットが10月より運用を開始しています。3床から暫定的に開始し、2022年4月からは6床で稼働する予定です。

脳卒中ケアユニット（SCU：Stroke Care Unit）は脳卒中の患者さん専用の集中治療室です。脳卒中の患者さんは後遺症がのこることも多く、薬剤での治療に加えて、リハビリテーションや嚥下訓練など生活のための動作を看護師や理学療法士、言語聴覚士などが協力して訓練することで回復を促します。

内科的治療の特徴

脳神経内科 診療科長 ^{なが い} 長井 ^{あつし} 篤 教授

○急性期の治療

発症急性期に来院くだされば、まず脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などのいずれのタイプの脳卒中であるかを診察やバイタルサイン（血圧、不整脈の有無）、緊急画像検査で判断します。脳神経内科で行うこととして、脳梗塞の発症から4.5時間以内であれば、出血などのリスクがないことを確認して、血栓溶解療法（tr-PA：組織プラスミノゲンアクチベーター）で血管に詰まった血栓を溶かすことが可能です。発症から早いほど治療効果も期待できますので、脳卒中の症状が起これば一刻も早く来院ください。脳出血の場合は、降圧、止血、手術の必要性などについて脳神経外科の先生と相談しながら治療を行います。内科治療の後は、脳神経外科の高度治療にバトンタッチします。

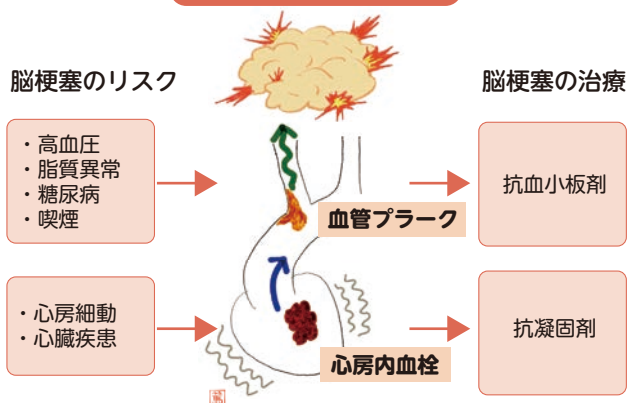
○再発予防の治療

脳卒中の発症後は、再発しないように治療を継続しましょう。脳梗塞の治療方針は、急性期も慢性期も図のような薬の使い分けをします。血の塊が心臓から脳に飛んで詰まる場合と、血管から飛んで詰まる



場合とで治療法が違います。また、脳梗塞の原因となるリスクを減らしましょう。開業医の先生方に連携して治療をしますので、普段内服されている薬がどちらにあたるのか、また量は適当なのか、一度ご確認ください。

脳梗塞の病型と治療薬



外科的治療の特徴

脳神経外科 診療科長 ^{あき やま} 秋山 ^{やす ひこ} 恭彦 教授

——脳卒中の外科的治療について教えてください。

脳卒中のなかでも、重症型の脳卒中には、救命のための外科的治療が必要になります。

脳卒中の外科治療には、いわゆる「頭を切る治療（狭義の手術）」と「カテーテルを使った切らない治療（血管内治療）」があります。

くも膜下出血：脳動脈瘤の破裂によって生じ、突然死する病気として有名です。出血が軽い場合には頭痛のみが症状のこともあります。症状が軽くても、救命のための治療が必要です。手術あるいは血管内治療で、破裂した脳動脈瘤を閉塞させる治療を行います。

脳内出血：脳内出血では、生吐き気や頭痛、身体麻痺や言語障害が生じます。大きな出血では、手術で出血を取り除きます。



脳梗塞：不整脈が原因でおこる脳梗塞は最も重症で、かつては、患者さんの多くが『寝たきり』となりました。近年の血管内治療の劇的な進歩によって、発症から非常に早い時間に治療を行えば、後遺症を残さずに治療ができるようになっていきます。

——患者さんへのメッセージ

脳卒中は突然起こる病気で、手術を受けるかどうかの判断はご家族に委ねられ、判断に迷うことが多いです。脳卒中の外科治療は、まずは救命を目的とした治療ですが、近年の外科的治療技術とリハビリテーション医療の進歩によって、後遺症を残さずに治療できる場合も増えてきています。



～どんな先生?～ Professor

島根大学病院に所属する教授の人柄、専門分野などを紹介するコーナーです。

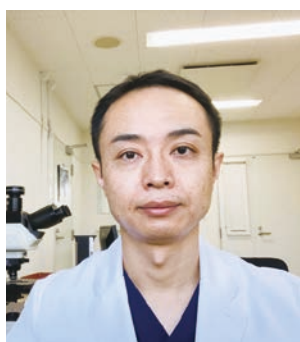
血液内科は幅広い治療選択があります

血液・腫瘍内科学 教授 ^{すず き} 鈴木 ^{りつ ろう} 律朗
血液内科 診療科長

2020年11月より、血液・腫瘍内科学の教授に就任した鈴木です。私は2014年10月に愛知県から島根に赴任し、これまで血液内科の診療にあたってきました。血液内科は血液中の赤血球・白血球・血小板・凝固因子の異常を扱う診療科です。同じ血液疾患であっても、鉄欠乏性貧血のように欠乏する因子を補充すればよい疾患から、白血病やリンパ腫のように抗がん剤治療・造血幹細胞移植まで実施しないといけない難治性腫瘍疾患まで、幅広い治療選択があります。白血病やリンパ腫は、昭和の時代には不治の病として恐れられていましたが、近年では治療法の進歩により半数以上が治癒するようになりました。

その代わり、適切な抗がん剤や分子標的治療薬を相当量使用しなければならない場合があります。患者さん

にもそれなりの副作用が出ますし、主治医にもそれに対応する技量と覚悟が求められます。このため、院内の多くの部署と協力して治療にあたっています。患者さんが困難を乗り越えられるように、病院スタッフとともに一丸となって頑張りたいと思います。



病院の病理部をご存じでしょうか？

器官病理学 教授 ^{かど た} 門田 ^{きゅういち} 球一
病理部長・病理診断科長

2021年4月に病理部長・病理診断科長に就任いたしました。私は元々愛媛

県の生まれで、出身大学の香川大学から赴任してきました。

皆さま、病院における病理部の役割をご存じでしょうか？病理部の業務としては、病変の一部を採取する生検や摘出検体を対象とする組織診断、粘膜などから擦って採取された細胞や剥離した細胞を対象とする細胞診断、不幸にして亡くなられた患者様の死因を究明するための病理解剖が含

まれます。近年では、患者さんごとに最適な治療法を提供するために、病理部門の役割がさらに重要となっています。しかし、地方では人口あたりの病理専門医数は極めて少なく、将来的な病理診断体制の維持には厳しい現状があり、島根県も例外ではありません。病理部では正確で精密な病理診断を継続するとともに、学生や研修医に病理診断学の魅力を伝え、病理医のリクルート・育成に努めたいと考えております。

まだまだ島根に不慣れな状況ですが、病理部とともどもよろしくお願いいたします。



島根大学病院看護部は、30以上もの部署があります。それぞれの部署はどのような役割を担っているのでしょうか。このコーナーでは、当院看護部についてまるっとお届けします。

A病棟7階 看護師長 さか ね 坂根 はるみ

A病棟7階は主に消化器内科、肝臓内科の病床からなります。食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆のう、膵臓の病気を持つ患者さんに対し、内視鏡的治療や血管内治療、化学療法などが行われています。食べ物が通る臓器なので検査や治療は絶飲食で鎮静薬を使用し、苦痛を最小限に考え行われています。私たちは絶食や安静に伴う苦痛が最小限になるよう観察や援助を行っています。思いを傾聴し、寄り添った看護を心がけています。退院に向けても多職種で連携を取り安心して自宅で生活していただけるように取り組んでいます。

また肝炎ウイルス対策として皆さんに広く肝炎に興味を持っていただくため、当院の肝疾患相談・支援セ



ンターと連携し肝炎ウイルスの検査をされた入院患者さんに「島根県肝炎ウイルス検査受検済みカード」の配布をしています。

A病棟7階は若いスタッフが多く元気に明るく、笑顔で丁寧に対応するよう心がけて頑張っています。

C病棟8階・外来化学療法室・腫瘍外来 おおくに みき 看護師長 大國 美紀

C病棟8階は、先端がん治療センター病棟となっており、血液内科、腫瘍内科をはじめ、様々な診療科のがん患者さんに対して、化学療法を中心とした治療を行っ



ています。当病棟の半数を占める無菌管理病床では、疾患や治療の影響による感染リスクの高い患者さんの治療や造血幹細胞移植を行っています。外来化学療法室には専門のスタッフが常駐しており、外来通院をしながら安全に抗がん薬治療を受けていただく専用の治療室となっています。入院・外来を通して、患者さんおひとりおひとりが安心して、よりよい治療を受けていただけるよう、医師・薬剤師・栄養士・社会福祉士など、様々な専門職種と日々情報を共有し、連携を図りながら看護を行っています。様々な状況で治療に取り組まれている患者さん・ご家族に寄り添う支援ができるよう、これからも笑顔を忘れず、丁寧にコミュニケーションを図りながら支援していきたいと思っています。



私のここの話

「私の休日」

やまさき けんじ
総務課 課長補佐 山崎 健治

子どもの頃から乗り親しんできた自転車を趣味のアイテムとして扱うようになったのは25歳を過ぎた頃から。マウンテンバイクのタイヤをロード用に交換して街乗り中心のサイクリングを始めました。また、子どもが小さい頃には自転車を車に載せて、旅行先での観光地巡りを楽しみました。島根では味わうことのない都会の洗練された街並みを走ったり、下関から北九州まで歩行者用の海底トンネルを通り本州脱出したり、車と違いゆっくりと景色やその土地の空気を楽しみながら移動できることも魅力です。

また、自転車は一人でも楽しめるスポーツで、少々健康を気遣うようになった30歳過ぎに手に入れたロードバイクが行動範囲を一気に広げ、このスピードと爽快感に益々のめり込みました。

自宅は「出雲路自動車道」途中の斐伊川土手に面しているので、漕ぎ出しには好立地。終点の稲佐の浜まで約25キロを休日の早朝に気持ちよく走っています。ゆっくりとリラックスしながら自転車を漕ぐ休日を楽しみに、日々仕事に励んでいます。



病院紹介

肝疾患相談・支援センター

肝疾患相談・
支援センターHP



とび た ひろし
センター長 飛田 博史

島根県から2008年に県内の肝炎の診療体制を整備する一環として、当院が肝疾患診療連携拠点病院に指定され肝疾患相談・支援センターを設置しました。肝疾患相談・支援センターでは、主にB型肝炎とC型肝炎に関する相談を受けています。最近では、肝炎訴訟や医療費助成制度の相談が増えています。また、どなたでも参加できる肝臓病教室や、医療従事者向けの研修会を企画・開催して、B型肝炎とC型肝炎に関する啓発活動を行っています。コロナ禍の影響を鑑みて、2019年まで対面で行っていた肝臓病教室、家族支援講座と市民公開講座を2020年

からウェブで配信しています。肝疾患相談・支援センターのホームページで視聴することができますので、是非ご覧ください。最近では、7月28日の世界肝炎デーにあわせて、一生に一度は肝炎ウイルス検査を受けていただくために、新聞広告、ラジオCMとラジオ番組での啓発活動を行いました。ラジオ番組につきましては、エフエム山陰の「ふるさとステーションエフエム山陰」(<https://audee.jp/program/show/100000098>)で配信されていますので、是非聴いてください。

その検査で未来がかわるかもしれません

B型・C型肝炎ウイルスは、感染を放置すると症状がないまま肝硬変・肝がんに行進する可能性があります。

7月28日は世界肝炎デーです

検査を受けたことがない方は、一生に一度は必ず**肝炎ウイルス検査**を受けましょう。

検査の受け方

全国健康保険協会	35歳以上なら「生活習慣病予防健診」のオプションとして職場の健診と合わせて受けられます
国民健康保険	市町村健診で受けられます(年齢などの条件あり)
その他	職場の健診項目に含まれているか確認を、人間ドックで受検していないか確認を。
上記のいずれもない	保健所もしくは委託医療機関で検査可能

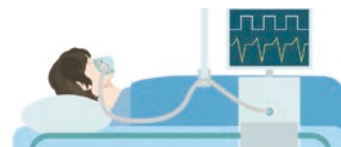
島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター 電話 0853-20-2721 受付時間 9:00~16:00 Eメール ksb30@med.shimane-u.ac.jp

イベントなどのお知らせ

島大病院 ちょっと気になる健康講座 放送予定(出雲ケーブルビジョン)

2021年10月放送予定

MEセンター 主任臨床工学技士 梅田 宏幸
放送内容:「ECMOについて」



コロナ禍における感染症対策の強化に向けて ~多用途型トリアージスペースの整備について~

ニュース & トピックス
NEWS & TOPICS

会計課施設管理室 室長 よね はら まさ たか
米原 昌隆

島根大学医学部では2021年5月下旬より附属病院多用途型トリアージスペース整備事業に着手し、9月14日に建物の完成引き渡しを迎えました。

この施設は自然災害や大規模事故等のトリアージに加えて、感染症流行時に感染の有無を判断するための問診や検査、そのための待合スペースを含め、幅広く非常時に使用できるスペース(トリアージスペース)を確保し、病院が診療を継続するとともに、非常時以外においては、研修室等の多用途スペースとして活用することを目的としています。建物規模は鉄骨平屋建て床面積180㎡で、本院では、主に感染症流行時における感染症検査の対応スペースとして11月より運用を開始します。本院は、現在のコロナ禍において、より多くの感染症検査を実施することで感染拡大の防止を図り、地域の皆様に安心して生活いただけるよう、地域医療の最後の砦としての役割を果たします。



建物外観



玄関



しまだい病院の キラ☆めき!



島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介します。

皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、真剣に仕事に取り組んでいます。



卒後臨床研修センター 歯科研修医 しまむら ゆきほ 嶋村 薫穂

歯科研修医の嶋村薫穂です。外来での診療、オペ、病棟管理など学びの絶えない充実した日々を過ごしています。歯科口腔外科には幅広い知識と超一流の技術を持った指導医の先生方や、常に向上心を持ち日々の診療や研究に当たっている若手の先生方がいらっしゃいます。毎日自分の未熟さを感じながらも、指導医、上級医の先生方にご指導いただきながら、知識・経験を積んでおります。

今後も常に研鑽を積み、患者さんにより良い医療を提供できる医師となれるよう精進してまいります。

B病棟7階 看護師 つちえ はな 土江 花菜

看護師として入職し2年目となりました。私が勤めるB病棟7階は手術を受けられる患者さんが多く、疾患や術式だけでなく、患者さんの生活背景に応じた個別性のあるケア、退院指導をするように心掛けています。以前、患者さんから「あなたがいてくれたから、こんなに楽しく入院生活が送れたよ」と仰って頂いたことがありました。私にとって本当に嬉しく、今でもその言葉を励みに頑張っています。

先輩方のご指導、同期からの支えを受けながら日々成長できるよう、今後も学ぶ姿勢や感謝の気持ちを忘れず、毎日笑顔で努めていきたいと思っております。



眼科 視能訓練士 こばやし こうき 小林 昂貴

今年の春から、視能訓練士として働いている小林昂貴です。眼科は、眼が見えにくい患者さんが来院されるため、医療職の中でも特に安全配慮が重要な職種です。そのため、検査への誘導は常に細心の注意を払って行っています。その際に、患者さんから丁寧な誘導だと感謝をいただく機会がありました。まだ仕事を始めたばかりで検査や対応に自信がありませんでしたが、感謝をされることで自分も医療人として患者さんの役に立っているという自覚が持てるようになりました。これからも、患者さんの役に立てるよう、立派な視能訓練士を目指して、日々精進して参ります。

編集後記

10月に入り、暑さが残りつつも過ごしやすい季節になりました。心地の良い空気に誘われて、最近は散歩に出かけて家のまわりをよく探検しています。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋...皆さまはいかがお過ごしでしょうか?

今回は、脳卒中について特集し、脳卒中診療に関わる先生方にお話を聞きました。病院に行くまでに私にできることとして、『FAST』を忘れずに、いざというときに行動ができるように心掛けたいです。次号は2022年1月発刊の予定です。

【編集者より】



島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ
についてのお問い合わせ先

(このQRコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます!)

医学部総務課 企画調査係 広報担当

☎ 0853-20-2019

✉ mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp

🌐 <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

